

namada Brasil.

ブラジル海外原爆展
2008年8月2日ー9月7日

mente e eu perma

ブラジル被爆者と平和を考える会
在ブラジル被爆協会

デザイン
(竹田信平)



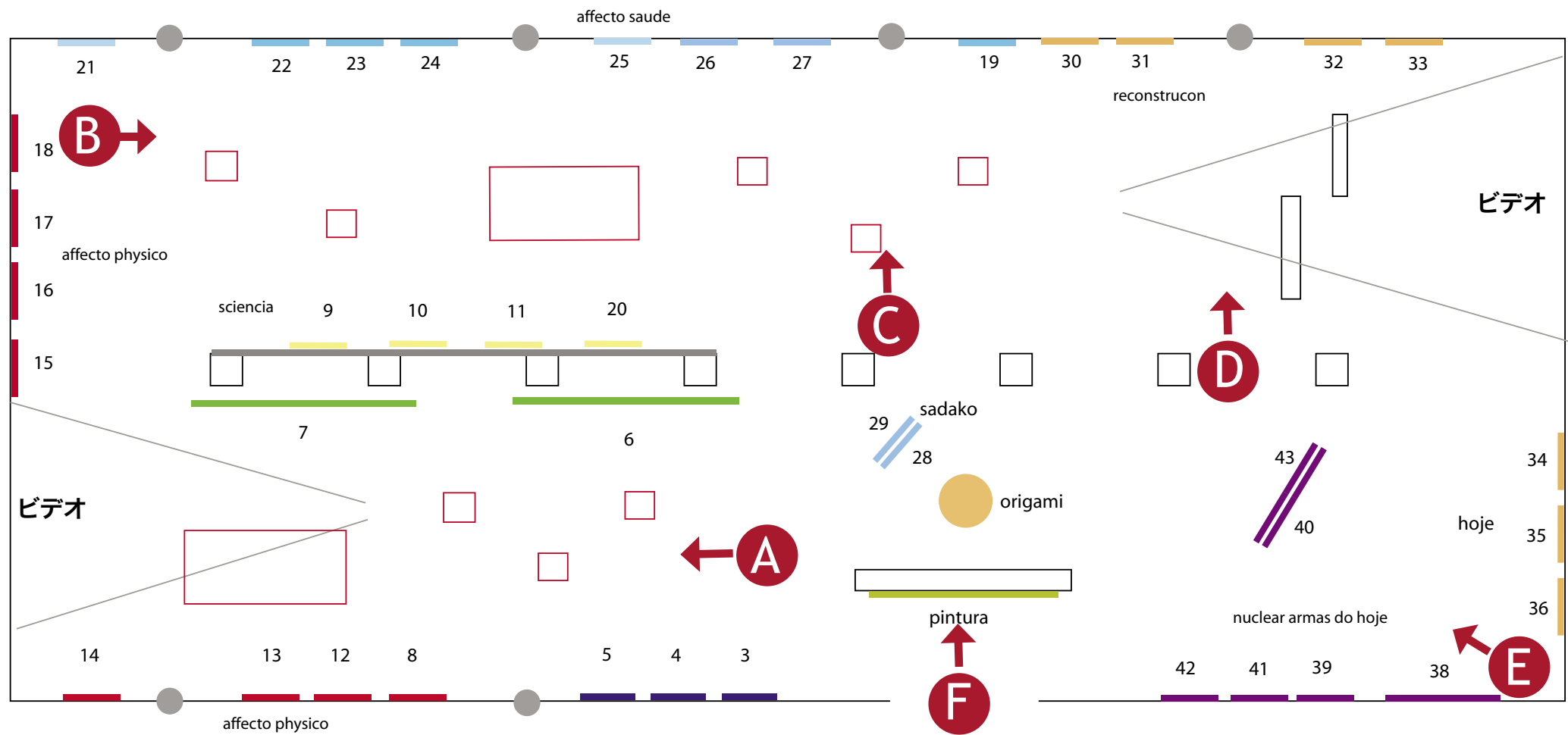
B



C



D



A



F



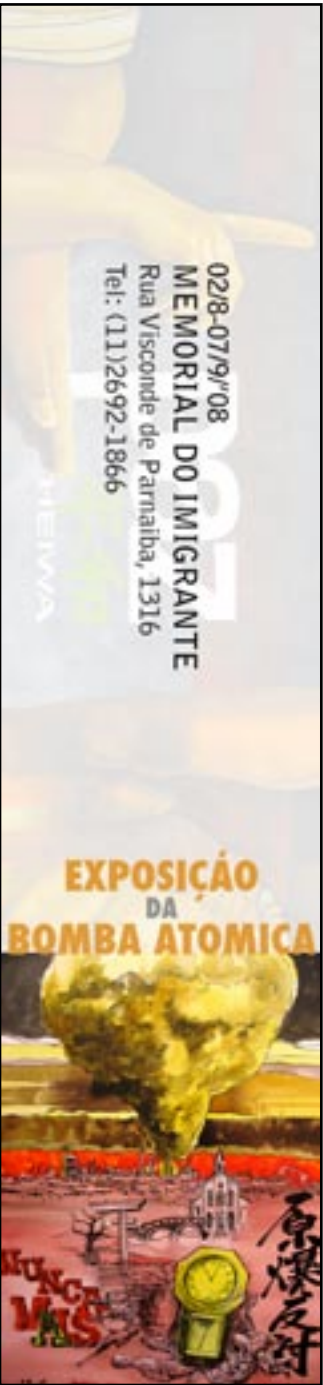
E

開催場所:移民記念博物館
サンパウロ市モッカ地区



プリント

招待状(在ブラジル被爆者伊藤薫氏の絵画)



しおり
(無料配布)

カレンダー
(無料配布)

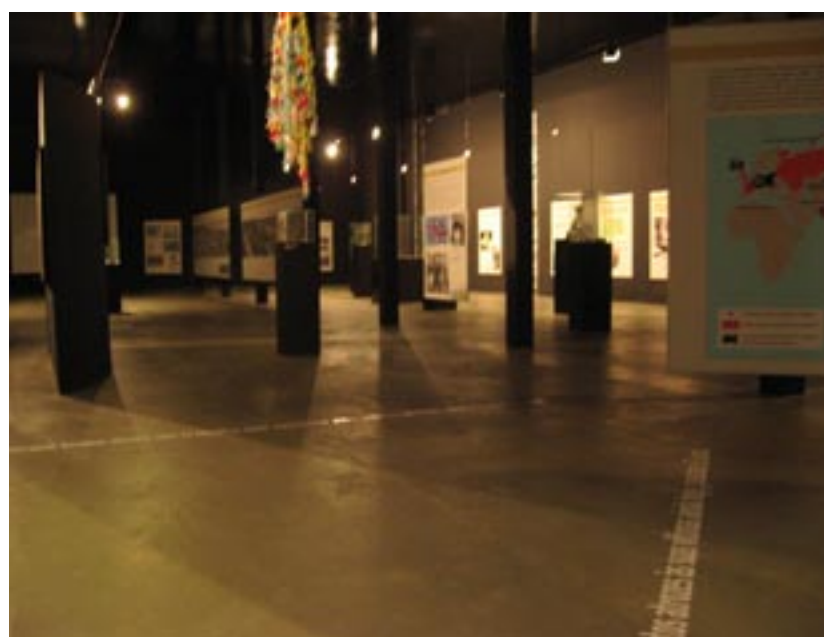
展示設定過程



2008年7月11日



2008年7月26日

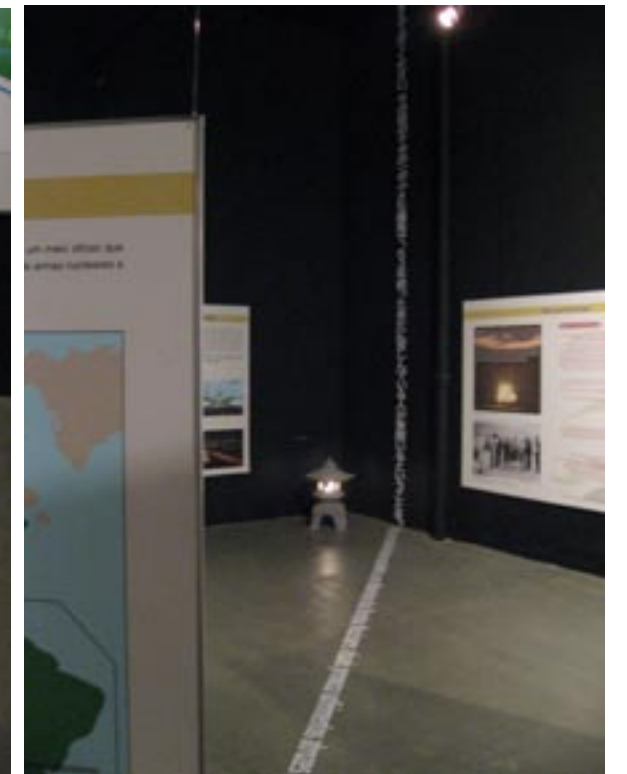


2008年8月2日

EXPOSIÇÃO BOMBA ATÔMICA

展示設計コンセプト1：被爆者ストーリーの支柱

在ブラジル被爆者の被爆そして移民体験記を5mx15cmの日本語の文章にして計9設置。地面にはブラジル語の訳を同じ大きさで設置。一人の人間の視点からみた原爆というものを展示全体を支える柱とした。



EXPOSIÇÃO BOMBA ATÔMICA

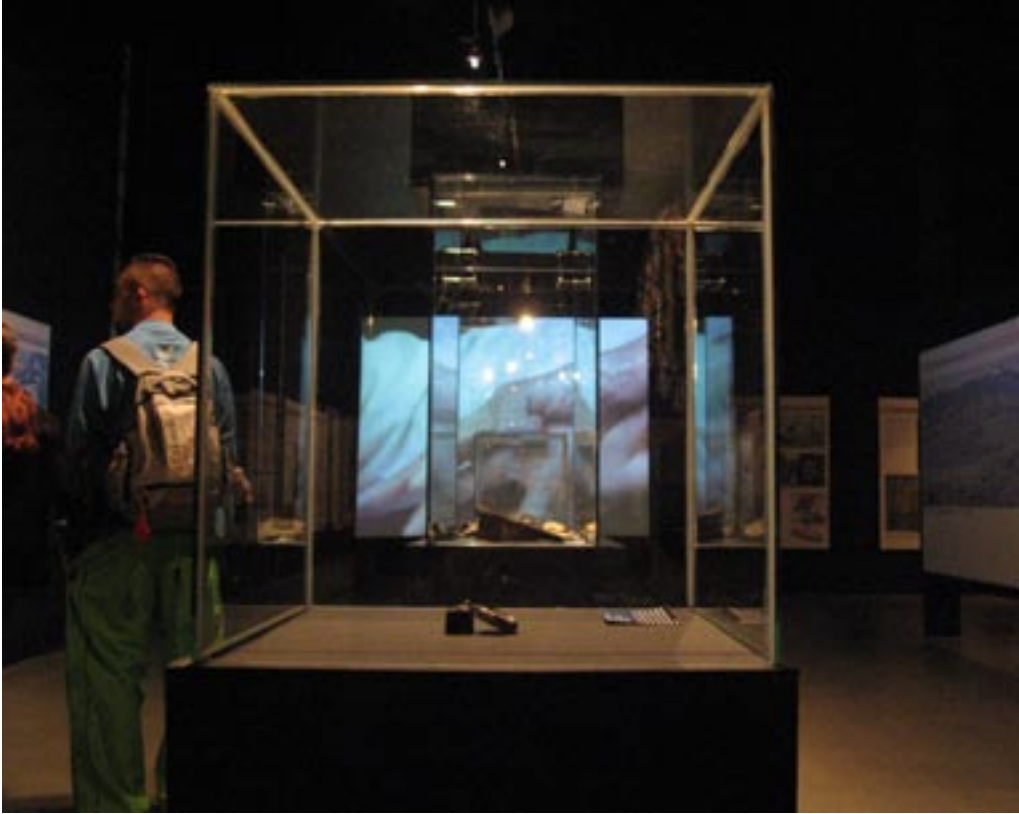
展示設計コンセプト2：被爆者ストーリーと繋がる展示品



在ブラジル被爆者のストーリーのポルトガル語訳が壁からそのまま展示品を置く台に直接つながるように設置。これによって展示品は過去に去ったものではなく、いまでも生きている被爆者が実際に経験したものという現在進行性をアピール。



展示設計コンセプト3：マルチメディア



”声”10分ビデオ
竹田信平作(2008年)

アメリカ軍の撮影したカラーの記録映像やABCCの映像を使い原爆の破壊力、人間へのインパクトをまとめたもの。音は臨場感を加えるために低く圧倒感のあるもの。2mx3mのスクリーンにプロジェクターを使いリピート上映。



”森田隆”11分ビデオ
竹田信平作(2006年)

2006年に撮影した在ブラジル被爆者、森田隆氏の人生を綴った短編ドキュメンタリー。54インチのテレビでリピート上映。

オープニング:300人+



8月2日のオープニングには
日系コミュニティを含めた
計300人以上の人が駆けつ
けた。



EXPOSIÇÃO BOMBA ATÔMICA